大峯奥駈道縦走山行報告

（山　　域）　近畿･紀伊山地(大峯奥駈道縦走)

(コ ー ス）　吉野⇒大天井ケ岳⇒山上ケ岳⇒大普賢岳⇒行者還岳⇒弥山⇒八経ケ岳⇒
釈迦ケ岳⇒太古ノ辻⇒前鬼口

（登山方法）　小屋泊り縦走

（山 行 日）　平成 30 年 6 月 24 日(日)～6 月 28 日(木)

（天　　候）　6 月 24 日 雨　25 日 晴れ　26 日 晴れ　27 日 雨のち曇り(強風)　28 日 曇り

（参 加 者）　篠塚 勇 (単独)

（山行タイム）

6 月 24 日 吉野奥千本口 9:30⇒四寸岩山 12:20⇒大天井ケ岳 15:00⇒洞辻茶屋 17:40

25 日 洞辻茶屋 5:30⇒山上ケ岳 6:50⇒大普賢岳 10:20 10:40⇒行者還避難小屋 14:30

26 日 行者還避難小屋 5:40⇒弥山 9:50 10:10⇒八経ケ岳 10:40 楊子ケ宿小屋 13:30

27 日 楊子ケ宿小屋 5:20⇒釈迦ケ岳 8:30 8:50⇒太古ノ辻 10:40⇒前鬼小仲坊 13:00

28 日 前鬼小仲坊 3:50⇒前鬼口 6:30

（山行報告）

2004 年世界遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録され、大峯奥駈道の存在を知り、いつかは行ってみたいと思い続けてきた。年齢による体力のこともあり、最後のチャンスとして吉野から熊野への逆峯で挑戦することにした。

◎1 日目(6 月 24 日)

23 日 新宿バスタを 23 時 15 分奈良交通の夜行高速バスで出発する。24 日は天気予報では曇りだったが、3 時頃から雨粒がバスの窓を叩く音がする。先が思いやられる。天理駅前で下車し近鉄で吉野駅へ、吉野ケーブルバスに乗換え奥千本口バス停(750m)に 9 時 10 分到着する。合羽とスパッツを装着し、気を引き締めて 9 時 30 分いよいよ出発だ。目の前の鳥居を潜り金峯神社で安全を祈願する。登山道と林道(未舗装)と舗装道を交互に緩い傾斜を上ること 1 時間 30 分で四寸岩山の登り口分岐(810m)に着く。四寸岩山(1,236m)へ直登と巻道と舗装道の 3 コースがある。長丁場の体力温存を考え、巻道を選ぶが、一番大変なルートを選んでしまった。雨で足元は悪く、危ない斜面も 2～3 箇所、可なりの遠回り、直登ルートとの合流箇所は頂上から僅か 100m 程下がった所で省エネどころではなく、汗は流れ続け可なりの体力消耗だ。足摺小屋は祈願所も兼ねており、休んでいると修験者が入って来て早口で読経をあげる。終わって後、話しかけたら首を横に振りサッサと出て行く。修行中は会話をしてはいけないらしい。二蔵小屋(1,083m)までは緩い下りが続く。小屋には話好きの管理人(管理人が居るのは、ここと弥山小屋だけ)と登山道を補修しに来たという滋賀県の「〇〇〇講」という女性 4 人が居り、「食べなさい」と菓子を戴く。14 時だが予定の宿泊場所はだいぶ先なので早々に腰をあげる。水の補給もあるので、大天井ケ岳山頂(1,439m)にはいかず在来道(巻道)ルートを行く。途中の滝に近い沢で水を 4L 確保する。五番関(1,211m)には女人結界門だけがヒッソリと立っている。これから先は、1 時間 30 分程の歩行でほぼ上り一辺だが所々に階段と鎖場がある。洞辻茶屋(1,484m)に 17 時 40 分到着する。泊りは本当はいけないのだろうが、以前来た時様子が分かっていたので縁台を借りることにした。重いリック(15Kg 程か)に出続ける汗で疲労困ぱいの中、何とか予定工程を達成すること

ができた。しかし、疲労で食欲が湧かずレトルト食品は半分しか食べれない。屋根はあるが吹き通しなので寝袋に入っても顔を吹き抜ける風が冷たくなかなか寝付かれない。
◎2 日目(6 月 25 日)
朝食は昨夕の残り半分を温めてやっと食べる。洞辻茶屋を 5 時 30 分に出発する。予報通り今日は快晴無風だ。陀羅尼助茶屋から急登が始まる。抜け切らない疲労、食欲不振、寝不足でペースが上がらない。15 年程前に西ノ覗を体験した折、身体をせり出した顔前の岩肌に石像が彫ってあるらしいが見過ごした事を思い起すが、今回は宿坊ルートを行く。大峰山寺の堂内では朝早くから修験者が読経をあげている。私も登山の安全祈願し、山上ケ岳山頂(1,719m)の湧出岩に向かう。人気の山だが朝早いので登山者はいない。携帯電話をしている(電波が受信出来るらしい)宿坊の方が、この先の注意箇所を教えてくれ、「無理をしないで足元に気を付けて」と励まされる。小笹小屋(1,610m)までは 40 分程の下りだ。昔は多くの宿坊で賑わっていたらしいが、今は 4～5 人泊まれるだけの年季の入った小屋だけだ。小屋裏には水量豊富な小川が流れ、水を腹イッパイ飲み、先の水の確保が不安なので容器満杯にする。女人結界門が立っている阿弥陀ケ森分岐(1,680m)を過ぎ、急峻な大普賢岳(1,780m)に喘ぎ喘ぎ頂きに辿り着くと 5 人組のグループがいる。人に会うのは二蔵小屋以来だ。大普賢岳だけを目指して東側のルートから登って来たと言う。ペースは相変わらず上がらずスタミナも切れてきたので、予定よりも可なり遅れている。今日の宿泊予定の弥山小屋までは無理なので、この時点で全踏破は諦め、エスケープルートに考えていた前鬼口に下山することに目標を変更する。国見岳(1,655m)～七曜岳(1,584m)にかけては奥駈道でも最難関と言われる。梯子や鎖場の急峻な岩場が延々と 1 時間半も続く。行者還岳(1,547m)の山頂は諦め、手前の分岐を小屋方面へ向かう。急坂を下り 30～40m も続く梯子段の先に、行者雫水が少量だが流れているので水を補充する。まもなく行者還避難小屋(1,460m)に 14 時 30 分到着する。予定より 2 時間遅れだ。2 部屋の一部 2 階のある新しく綺麗な小屋だ。夕方になっても誰もこない。今夜も 1 人だ。食事はこれ以降朝・夕共にキチンと取れるようになる。
◎3 日目(6 月 26 日)
行者還避難小屋を 5 時 40 分出発する。今日も心地よい風があり最高の天気だ。幾つもの小高い山(20～40m)を歩くこと 2 時間で奥駈道出合(1,520m) (行者還トンネルからの合流地)に着く。前方の山の頂きに赤い屋根の弥山小屋が見える。高低差が少なく清々しいブナ林の弁天ノ森を過ぎ、聖宝の宿跡からは急峻な 300m の上りに喘ぎながら 1 時間を要し弥山(1,895m)に到着する。この先の水場は枯れることもあるという事前情報なので小屋で水を 3L 分けて貰う。1L 100 円だがおかみさんが「200 円でいいですよ」と心根が有難い。気になっていた前鬼口バス停の時刻を聞いたら、1 日 1 便 7 時 31 分発と言う。前日は前鬼の宿坊に泊まるしかない。八経ケ岳の手前では鹿除け柵の中、天然記念物のオオヤマレンゲが今年は咲くのが早いらしく数株咲き残っているだけだ。近畿で一番高い山の八経ケ岳(1,915m)に立つ。平日だがこれまで合わせて 15 人位と会う。今日は展望がよく歩いて来た山々、歩いて行く山々が遠望できる。八経ケ岳から先は下山口まで 1 人旅が続くことになった。この先西側に大崩落地が 2 箇所あり、斜面の足跡を慎重に横切る。翌日だったら渡れたかどうか。禅師の森から楊子の森にかけて笹原の緩い長い下りを快調に進む。八経ケ岳から楊子ケ宿小屋まで地図ではコースタイム 2 時間 30 分とあるが、一般の人ではプラス 1 時間はかかるだろう。楊子ケ宿小屋(1,600m)に 13 時 30 分に着く。今日は体調も良く登山日和の一日だった。ここで先に進むか留まるか迷う。次

の深仙小屋まで 4 時間程で遅くなるが行けないことはなく、天気のいい今日の内に核心部(危険個所が多い)の釈迦ケ岳を超えた方がいいか。又は、明日は出発前予報では曇りだが、どうせ先に行っても翌日は宿坊泊りになる。楽な方を選ぶが、判断が裏目にでる。水場は 10 分程下った所にある。少量の湧水が出ている。体を拭き容器と喉を満タンにする。この小屋も新しく快適だ。夕方から雲行きが怪しくなり、夜半から雨と強風だ。明日が思いやられる。

◎4 日目(6 月 27 日)

停滞も考えるが、明日の天気の保証がないので先に進むことにする、楊子ケ宿小屋を 5 時 20 分出発する。いきなり仏生ケ岳への上りだ。結構な降雨で合羽とスパッツを付けているが、靴の中は 1 時間程で水浸しだ。西斜面から風速 15m 前後の風が吹き揚げてくる。途中、崩落地を横切る時は体を持っていかれそうになり恐怖を覚える。孔雀岳から釈迦ケ岳の東側には呼名の付いた奇岩が続くらしいが濃霧で見えない。途中の両部分け(左右切れ落ちた岩の鞍部越え)、馬ノ背(道幅 30cm の痩せ尾根)等々を強風と足元の滑りを意識しながら慎重に進む。最後はロープが連続する急登を上り奥駈道の盟主である釈迦ケ岳山頂(1,800m)に 8 時 30 分到着する。山頂には独りの強力が 3 回に分け担ぎ揚げたという銅製の釈迦如来像が迎えてくれる。よくここまで来れたものだと、考えに耽りながら小休止する。ここから今日の宿坊までは約 1,000m の下りだ。ガレ石の急坂を 300m 下った所に炭焼き小屋風の深仙小屋(1,500m)がある。真ん中に囲炉裏があり、太陽発電の小さな LED 照明が 4 個所ついている。近くには小屋よりも大きく立派な潅頂堂がある。100m 手前には香精水が岩間から湧き出ている。大日岳(1,568m)直下には「これから先は行場なので自己責任で」という注意看板があり頂上はスルーする。下りきった先から太古ノ辻(1,500m)までは多少のアップダウンはあるがほぼ水平だ。太古ノ辻は奥駈道全ルートの約半分で、これから先は南奥駈道と言う。南奥駈道は新宮山彦グループが山小屋や登山道等の管理･維持補修を行っているらしい。お陰で廃道寸前の南奥駈道を蘇らせ登山者も徐々に増えているという。同グループが発行しているイラストマップは山岳地図にはない詳細な情報が満載で大変参考になった。修験者も一般の登山者も大半はここから前鬼へ下るという。雨もほぼ上がったので合羽を脱ぐ。強風もこれから先は東側斜面になるので弱くなる。ここからは 700m 下りで、ガレ場や 853 段の木階段もある急坂の上、雨あがりで石や特に木の階段は急なうえヌメヌメしてステッキも滑り、一歩一歩慎重にコースタイムの倍近くかかり下山する。13 時に前鬼小仲坊(800m)の宿坊に到着かる。役行者の従者で 61 代 1300 年続く五鬼助さんは、宿坊に貼ってある新聞記事によると大阪･寝屋川市でサラリーマンをしているという。土･日曜と祝日だけ戻るというので今日は母屋も締まっている。素泊り 4,000 円を料金箱に入れる。時間も早いので 4 日間着た登山着を水洗いし、身体もサッパリする。曇り空だが風があるので多少乾くだろう。収容人員 50 名の大きな宿坊に今日も 1 人だ。綺麗な布団を一式借りるが畳部屋の中は暖かく毛布は要らないくらいだった。明日は余裕をみて 2 時 30 分起床の 4 時出発とし、早めに横になる。

◎5 日目(6 月 28 日)

ヘッドランプを点け、小仲坊を 3 時 50 分出発する。標高差約 500m、10Km のダラダラ下り坂の舗装道を 2 時間 30 分かけて前鬼口バス停(320m)に到着する。バス到着まで 1 時間程あるので、来た道を 5 分程戻り沢の水で身体を拭き、着替えて身綺麗にする。路線バスで東熊野街道(国道 169 号線)を北上する。風光明媚な谷あいを揺られること 2 時間で下市駅前に着く。駅員が新幹線へは京都が近い

と言うので、近鉄で京都へ、新幹線に乗り換え夕方に帰葉する。

テント泊もあるかと考えていたが、奥駈道を縦走する人とは会うこともなく、小屋も貸切り状態だった。これ程少ないとは驚いた。水場も枯れることがあるとの情報だったので心配していたが、水場は全て水が出ていた。終わって思うことは、計画の全踏破は年齢を考えると無謀と言えた。半分の行程(75 靡(ﾋﾞｷ)～29 靡 全長約 60Km)でも前鬼まで踏破できたことは十二分に満足している。身体に感謝だ。

以上

洞辻茶屋の内部(初日の宿)

七曜岳付近の鎖場(写っている 2 倍 30m はある。上部から撮影)

山上ケ岳山頂の湧出岩

阿弥陀ケ森の女人結界門

八経ケ岳山頂にて

天気が悪く顔が見えない釈迦ケ岳
山頂の釈迦如来像

前鬼小仲坊の宿坊に今夜も一人ぼっち

山行終点の前鬼口バス停